

第457号

2012年（平成24年）3月31日

神資研ニュース

神奈川県資料室研究会

〒210-0011 川崎市川崎区富士見 2-1-4
県立川崎図書館内

TEL: (044) 233-4537

FAX: (044) 210-1146

<https://saas01.netcommons.net/shinshiken/htdocs/>

第585回 例会 ○ 見学会/平成24年2月17日

機械振興協会 BIC ライブラリ

浦部 友美 URABE Tomomi

(富士通株知的財産権本部 R&D 情報統括部)

●2012年2月の神資研例会では、機械振興協会 BIC ライブラリ (Business Information Commons Library) を見学させていただきました。東京タワーの真横という位置にあり、タワーの根元から見上げる景色は圧巻です。見上げた先にあるタワーの先端部は曲がっており、1年経った今も東日本大震災の爪跡が残されていました。

当日の見学会参加者は22名、以下の流れで行われました。

1. BIC ライブラリの概要説明
2. 館内見学 (ライブラリ、書庫)
3. 質疑応答



BIC ライブラリ入口

1. 概要説明

最初に、機械振興協会経済研究所情報創発部の結城智里様より、BIC ライブラリの概要や、2011年5月に行われたリニューアルに関するお話を伺いました。

1.1 概要

BIC ライブラリ (旧: 機械工業図書館) は、1963年に経済研究所の附設図書館として誕生し、以来、機械産業に特化した専門図書館として活動しています。2011年5月に「交流の場をつくる」というコンセプトのもと、BIC ライブラリへと名称を変更し、リニューアルオープンしました。現在、管理職を含めた4名のスタッフで運営しています。

蔵書構成としては、機械工業を主題とする統計、年鑑、企業情報、ハンドブックなどの参考図書、機械産業を中心とした社史、有価証券報告書のほか、団体報告書 (約20,000冊)、国内外の雑誌や新聞 (約460タイトル) を所蔵し、Mergent Online (海外企業情報)、eol DB タワーサービス (有価証券報告書) などのオンラインデータベースも利用できます。これら所蔵資料の目録の一部はweb上に公開され、検索することが可能となっています。なお、特許、規格やカタログ類、技術関係資料については収集の対象外となっています。

利用対象者に制限はなく、閲覧や複写は誰でも利用できます (ただし、学生の利用は研究指導教員の

紹介状が必要)。このほかに、館外貸出ができるライブラリ会員制度があります。会員には館外貸出や設備の優先利用、各種サービスの割引などの特典が設けられています。

1.2 リニューアルを機に

機械産業を中心としたビジネス情報の提供サービスなどの従来サービスに加え、創業を考えるユーザーに対するビジネス支援や、産学官連携アドバイザーに導くための受付窓口としての活動が始まりました。

また、大学図書館等で注目されているラーニングコモンズの考え方を取り入れ、ディスカッションを行い、情報を発信することができる場所を目指しているとのことで、リニューアル時に内装を一新したライブラリは、「場」としての空間作りに工夫を凝らしたつくりとなっています。

2. 館内見学

BIC ライブラリは、機械振興会館の地階に位置しており、地下1階にライブラリ、地下2階に書庫があります。ライブラリと書庫の敷地はほぼ等しく、数多くの資料が収蔵されています。書庫にある資料の閲覧を希望する場合は、受付で手続きを取り、希望者自らが書庫へ取りに行く形をとっています。

2.1 ライブラリ（地下1階）

館内に入ってまず驚いたのは、地下にあるとは思えないほど明るく綺麗な色彩でした。天井まで届く木製で明るいライトブラウンの壁面書架、カラフルに彩られたいくつものポール（新聞や雑誌のラック）、深緑色の落ち着いたソファのあるサロン。透明なガラスで仕切られた個別のプレミアムブースに、小規模会議ができ遮音性も兼ねたディスカッションスペース…。色彩豊かな空間は見ていると楽しく、ほっこりとした優しいものでした。



ポール（新聞や雑誌のラック）

<ライブラリスペース>

- ・受付
- ・複写機
- ・情報検索ラウンジ
- ・サロン
- ・オープンスペース
- ・ディスカッションルーム
- ・プレミアムブース
- ・統計類
- ・新聞
- ・国内外雑誌
- ・団体報告書、JKA 報告書

受付は事務スペースを兼ねた作りで、スタッフが作業中の場合であっても、すぐに利用者対応ができるようになっています。事務スペースにある机の上



壁面書架



サロン



プレミアムブース

には資料が山積みになっており、仕事量の多さを感じました。

天井まで届く壁面書架の上2段は地震対策のための滑り止めシートを敷き、利用頻度が低い辞書類が置いてありました。梯子が近くに用意されており、上段を使う利用者への配慮が伺えます。

1人掛け用のソファが並ぶサロンは、リニューアル当初はU字型に並べられていたようですが、個人利用が多いことに気付き、1人で腰掛けやすいようにと並べなおしたとのこと。サロンの床にそっと置かれている落ち着いた雰囲気のリフトも印象的でした。

書架や設備以外では、建物内の柱に貼られていた「九州自動車企業立地マップ」や「半導体関連企業マップ（東北）」のポスターが印象的でした。空いたスペースを有効活用し、視覚的な情報発信をしていることが伺えました。

受付の近くには2011年3月に起きた東日本大震災のコーナーが設けられており、震災関連記事が掲載されている雑誌やwebニュースが展示されていました。



東日本大震災コーナー



半導体関連企業マップ（東北）

2.2 書庫（地下2階）



書庫の様子

電動書架を中心とする書庫は、様々な資料が収蔵されていました。電動書架はこれまで大きな故障もなく、長年使い続けているそうです。書棚の横にはたくさんのダンボールが積み重ねられていました。これから配架する資料も多く存在しているようで、スタッフによる運営・管理面でのご苦勞を垣間見たように感じました。

書庫にあるものの大半がライブラリ配架資料のバックナンバーですが、通商産業政策史研究所（経済産業調査会の附属機関）や日本機械工業連合会などの団体から寄贈された資料も少なくないようです。書籍はもちろんのことですが、往時の高級官僚のインタビューテープといった、歴史的な貴重資料も保管されていました。インタビューテープは、録音し

た当時の「カセットテープ」と、2005年頃に録音内容を複製した「ミニディスク（MD）」の2媒体で保存されていました。現在はどちらの媒体も手軽に利用することが困難なため、電子化・文章化（音声を文字にし、紙媒体での保存）の検討をしているとのことで、時代の変化に合わせていくのは大変だということでした。資料の保存方法や保存形態についてはどこの図書館も似た悩みを持ちますが、今後に伝えていくためにも対応していかなければならないことだと思いました。

古くから収集されている資料が多く、参加者のみなさんは物珍しげに当時の資料を眺めていました。



インタビューテープ

3. 終わりに

全体的にゆったりとした雰囲気、話しやすい環境づくりが出来ているライブラリだと感じました。滞在時間を気にすることなく利用できる、居心地の良い空間だと思います。

今後は、調査報告書をはじめとしたビジネス支援分野の収集・拡大、最新報告書の電子化などをすすめ、新旧サービスを充実させた利用者にとって使いやすいライブラリを目指していきたいとのことでした。取り組むべき課題は多くあると思いますが、今以上に素晴らしいライブラリとなることを期待しています。

最後になりましたが、お忙しい中貴重な時間を割いて丁寧にご対応いただきました結城様をはじめ、関係者の皆様方に心より御礼申し上げ、報告とさせていただきます。ありがとうございました。

